

平成19年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：ダイズ害虫一般

(カメムシ類No. 1、ハスモンヨトウNo. 1、フタスジヒメハムシNo. 1)

平成19年8月23日

鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

8月20～22日に行った県内巡回調査の結果、カメムシ類は平年並、ハスモンヨトウは平年よりやや少ない発生であった。

向こう1ヶ月の気象は、ダイズ害虫の発生に好適な条件と見込まれているので、今後の発生に注意し適期防除を行う。

2 カメムシ類

(1) 発生状況

ア 8月22日現在、本県ではホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシの成虫および若齢幼虫が発生している。

イ 発生ほ場率は47.2% (平年36.2%)と平年よりやや多い発生であるが、

25株当たり平均成幼虫数は0.9頭(平年0.8頭)と平年並の発生となっている(表)。

ウ 予察灯におけるカメムシ類の誘殺数は平年並となっている。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 若莢期にあたる開花期後25～30日と、その10日後の2回の防除を徹底する。

イ ハスモンヨトウの発生が多いほ場では、防除指針等を参考にして薬剤を選択する。

ウ 近年、9月以降増加する傾向があるので、今後の発生状況に注意し、発生が多い場合は追加防除を行う。

3 ハスモンヨトウ

(1) 発生状況

ア 8月22日現在、本県では、幼虫の分散が始まっており、発生の主体は中齢幼虫である。

イ 8月22日現在、発生ほ場率は69.0% (平年75.0%)と平年並の発生であるが、1a当たりの平均白変葉か所数は0.4か所(平年1.2か所)と平年に比較して少ない発生となっている(表)。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 若齢幼虫の加害によって発生する白変葉の早期発見に努める。発生初期の場合、葉の切除などの捕殺を行うか、トレボン粉剤DL、エルサン粉剤3DLなどでスポット散布を行う。

イ 防除の目安は、1アール当たりの白変カ所数5ヶ所以上とする。

ウ 若齢幼虫に対する上記粉剤の効果は高いが、齢期が進むと防除効果が劣るため防除適

期を失しないようにする。なお、中～老齡幼虫が混在する場合はロムダン粉剤DL、ミックジョーカー粉剤DL、マトリックジョーカー粉剤DL等を散布すると比較的效果が高い。

4 フタスジヒメハムシ

(1) 発生状況

8月22日現在、発生ほ場率は77.8%、25株当たり平均虫数は21.1頭で、平年並の発生である(表)。

(2) 防除上注意すべき事項

発生が多い場合、防除指針等を参考に防除を行う。

表 ダイズ害虫の発生状況(8月下旬)

市町村	地点	ほ場数	カメムシ類	ハスモンヨトウ	フタスジヒメハムシ
			成幼虫数/25株	白変か所数/a	成虫数/25株
鳥取市	中大路	3	0	0.3	4.0
国府町	玉鉾	3	1.3	1.0	0.3
気高町	土居	3	0.7	0.1	2.0
河原町	佐貫	3	0	0.1	11.3
岩美町	岩常	3	1.0	0.5	37.7
倉吉市	新田	3	2.0	0.5	135.0
	中江	3	-	0.9	-
関金町	安歩	3	0.3	0.0	5.3
湯梨浜町	長和田	3	-	0.3	-
北栄町	原	3	0.7	0.3	0.3
米子市	春日	3	1.3	0.8	18.0
日吉津村	富吉	3	1.0	0.1	4.0
南部町	福成	3	0	0.2	24.3
大山町	坊領	3	3.0	0.0	11.3
H19年平均			0.9(0.8)	0.4(1.2)	21.1

注) 数値は各地の平均値。()内は平年値。